☆☆☆

しずおか愛護

No.32（平成 30 年 3 月 20 日発行）

静岡県知的障害者福祉協会・広報　発行

☆☆☆

=巻 頭 言=

静岡県知的障害者福祉協会
副会長　滝口裕二
（掛川工房つつじ）

会員施設・事業所の皆様方におかれましては、日頃より静岡県知的障害者福祉協会の各種事業へのご理解、ご協力をいただき有難うございます。

県福祉協会副会長、生産活動・就労支援部会部会長という大役を仰せつかり 3 年目を迎えます。これまでの２年間を振り返りますと、協会活動への初めての参加という事では、自身の力不足から皆様には、多大なるご迷惑をお掛けしたのではないかと不安だらけではありましたが、新しく迎える 30 年度に気持ちも切り替え、一つ一つ前向きに取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。

2005 年に障害者自立支援法が施行され、その後「障害者総合支援法」に改正され、３年毎に制度の見直しを繰り返しながら、より良い方向へと進んではいると思います。しかしながら、それぞれの部会の立場では、思う所が色々あるとは思います。就労に関して見ると、以前より就労の促進という点は掲げられているように思いますが、未だに福祉的就労にかかる諸課題が解決に向かっているとは思えません。そこには、措置制度の時代からの諸課題に加え、目先を変える形で、就労・訓練等を環境面で支援する基盤の問題も散見されます。

平成 30 年度報酬改定案が、障害サービス等報酬改定検討チーム会議資料として、2 月 5 日に示されました。特に就労継続支援 B 型においては、目標工賃達成加算の廃止が、基本報酬に十分反映されていないと思えることや、重度の方を積極的に受け入れている事業所への評価の仕組みが要件として厳しいこと等々、これらに限らず、地域移行・地域生活支援に関すること、共生型サービスの基準・報酬の設定等を見ても課題は山積です。

サービス支援現場でも、職員の確保・人材育成・障がいの多様化・重度高齢化等の課題対応は、より一層急務であります。

引き続き会員の皆さまとの連携を図り、情報を共有する形で取り組んでいきたいと思います。

平成 29 年度

第 26 回愛護ギャラリー展について

文化担当理事　中村　文久
（障害者就業･生活支援センターさつき）

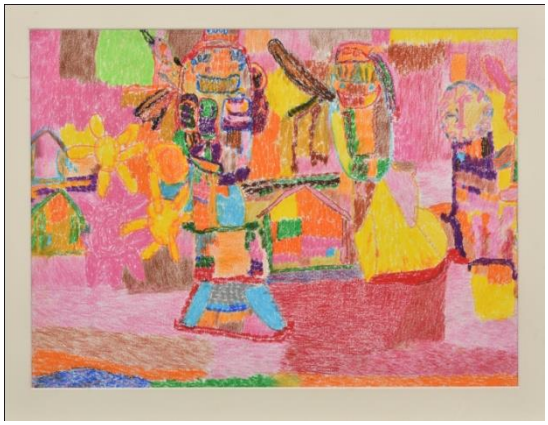
◯開催日：平成 29 年 12 月 14 日（木）～18 日（月）
◯会場：グランシップ 6 階展示ギャラリー、交流ホール（開会・表彰式）

今回も昨年と同様の会期、会場にて開催しました。
障害者総合支援法のもと、障害者施設を取り巻く環境が大きく変わり、日中活動の内容も就労系サービス事業所を中心に、変化が出てきました。それにつれ作品出品数も就労継続支援Ｂ型事業所からは、減少しました。そこで今回は、金・銀賞に加え、「銅賞」を設け、製作意欲の高まりに期待しました。まだ誰もがどんな作品でも出展できる「フリー部門」を設けて、翌年からの作品出品に繋がるように考えました。
会期中は大きな事故もなく無事に終了することができました。入場者数は以下のとおりです。
◯入場者数：715 名（昨年比 98.3%）

終了後の平成 30 年 2 月 8 日午後 1 時 30 分より県総合社会福祉会館にて反省会を行いました。次年度に向けての反省点、課題がいくつか挙げられました。
出展部門について、審査の方法、審査員について等の検討すべき課題が挙げられました。これらの問題は今後、協会全体で考えることだと思います。

絵画の部

県知事賞

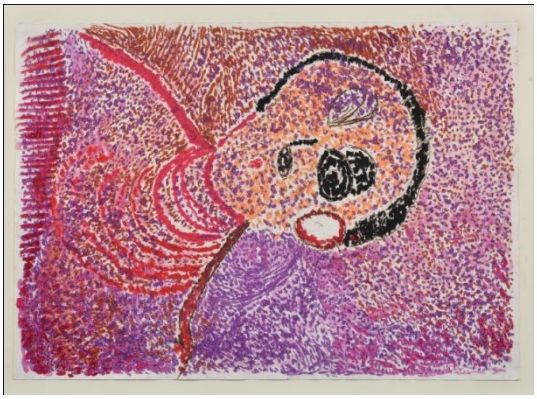


富岳の里　「ねぶた祭り」

静岡市長賞

沼津のぞみの園「僕の好きなもの」

県福祉協会長賞



菊川寮「人物」

陶芸の部

県知事賞

富岳学園　「むかーし　むかしあったとさ」

静岡市長賞

富岳の郷　「IN THE SEA」

県福祉協会長賞

エイブル富岳　「洞窟探検」

工芸の部

県知事賞

富岳学園　「みんな大好き」

静岡市長賞

エイブル富岳　「兵士の休息」

県福祉協会会長賞

エイブル富岳　「エイブル女性利用者」

第 26 回　ふれあい交歓会(就労自立者激励会)

地域支援部会　矢代　啓

日時　　平成 29 年 11 月 26 日(日)10:30～14:00
場所　　クーポール会館（静岡市葵区）
参加者数　53 名（利用者 45 名　引率者 8 名）

1　開会の言葉　　静岡県知的障害者福祉協会　副会長　天良　昭彦
2　主催者挨拶　　静岡県知的障害者福祉協会　会長　八谷　重之
3　永年勤続表彰　　池谷忠夫（ファミィーユさんあい）
　　小川智史（　　同上　　）

塩沢智美（　　同上　　）
斉藤紀代（アフターケアセンターくさぶえ）
4　来賓祝辞　　静岡県手をつなぐ育成会　会長　小出　隆司
5　グループワーク
　進行　　社会福祉法人明和会　オランチ　矢代　啓
6　交流会－昼食会－カラオケ大会
　司会　　社会福祉法人明和会　オランチ　矢代　啓
7　閉会の言葉　　静岡県知的障害者福祉協会　副会長　滝口　裕二

（＊敬称略）

「第 26 回ふれあい交歓会」が 11 月 26 日に静岡市内のクーポール会館で行われました。

今年度の交歓会は例年行っていた体験発表のかわりに、グループワークをプログラムへ取り入れました。多くの意見を発言してもらい、より激励・交流の意味合いを強くし、また、参加者の増加へとつなげられたらと思い企画しました。

7 グループに分かれ、テーマである「夢を語ろう～夢をかなえよう～」にそって意見交換を行いました。夢を言い合うだけでなく、実現の為の第一歩は、まず何から始めようか？というところまでもっていくことを目標として進めました。

職員がファシリテーター役をつとめ、発表は皆さんに行ってもらいました。様々な夢について皆さんの発言があり、すでに夢に向って動き出している方、漠然とした夢で留まっている方もいました。

最後に、夢を皆と共有し、時に背中を押してもらったり、励ましあったり、相談したり、こういった場を一つのきっかけとして夢の実現に向っていってもらえたらと思いました。この参加者の中で、例えば、夢が実現した方から、この交歓会が実現のきっかけだったということを聞けたら嬉しく思います。

平成 29 年度　臨時会員総会（会長選挙）報告

事務局　青野剛明

平成 30 年 1 月 25 日に平成 29 年度臨時会員総会が、平成 30・31 年度の会長を選出するため施設長等研修会と同時開催されました。今回の会長選挙は、当協会発足以来初めての投票による会長選出となりました。

今回の会長選挙は、平成 29 年 12 月 6 日に告示し、沼津のぞみの里 施設長　池谷 修 氏、ヴィヴァーチェあしくぼ 所長 降矢章治 氏の二人から推薦状が提出されました。

臨時総会では、まず、二人から所信表明が行われました。次に、臨時会員総会に出席した会員が、選挙管理委員が見守る中、投票を行い、三谷監事立会いのもと順調に開票作業が行われまし

た。
　再開後、山下選挙管理委員から投票結果が次のとおり報告され、次期会長に池谷 修さんが選出されました。
・投票総数　　１４９票
・池谷　修 氏　１２９票
・降矢章治 氏　　１７票
・無効票　　３票

平成 29 年度 施設長等研修会報告

事務局　青野剛明

　平成 29 年度施設長等研修会が、平成 30 年 1 月 25 日～26 日に、静岡市葵区の中島屋グランドホテルを会場に開催されました。今年度は、次期会長を選ぶ臨時会員総会を同時開催し、149 名の参加を得て盛会の中で終了することができました。
　開催に際しては、各部会長をはじめ、多くの会員施設の皆様にご参加、ご協力をいただき誠にありがとうございました。なお、1 日目の会場が手狭な上、机がなく皆様にご迷惑をおかけしてしまい、大変申し訳ありませんでした。
　研修 1 日目は、まず、平成 30・31 年度の部会長、副部会長、地区推薦役員等の選出を行いました。
　研修に入り、日本知的障害者福祉協会政策委員会の河原委員長に大変お忙しい中お越しいただき、平成 30 年度の障害福祉サービス等報酬改定や制度改正のポイントについてお話しいただきました。
　その後、行政説明で静岡県障害者政策課障害者政策班の上原班長から、差別解消に向けた県の施策などについて説明がありました。
　2 日目は、午前中分科会に分かれ、各テーマについて活発な意見交換が行われました。その後、分科会で出された意見などの報告があり、２日間を通して大変内容の濃い研修会となりました。

‖　分科会報告

【　第１分科会　児童発達支援部会　】

三方原スクエア児童部　出水巌夫

テーマ「児童・家庭支援の現状と課題について考える」
　入所からは、社会福祉法人伊豆つくし会 伊豆つくし学園施設長の藤原富雄氏より「伊豆つくし学園の現状と児童部及び加齢児の課題」と題して発表がありました。加齢児は措置延長廃止規定の中で GH 等への移行困難状況もあり、児相や行政との協議連携が更に必要となります。
　愛着児に対しては支援職員の専門性や在宅サービス、自立支援協議会の機能充実の必要性が意

見として出されました。
　通園からは、東遠学園組合こども発達支援センターみなみめばえ施設長の八木智子氏より「就園支援における現状と課題」について発題があり、行政と地域の専門機関によって組織された、就園支援委員会による通園に向けた乳幼児期の連携事例が発表されました。ただ他地域では、行政の考え方に格差がある問題も大きく、この実例を通して他地域でもシステム構築が進む事を願っています。
　短時間でしたが、貴重な発題情報を基に活発な意見交換が行われた有意義な分科会でした。

【　第２分科会　障害者支援施設部会　】

さしだ希望の里　三田充彦

　テーマ「強度行動障害への支援（加算・支援計画シート）」
　　「人材確保・人材育成の取り組み（情報交換）」
　障害者支援施設部会では、強度行動障害への支援において支援計画シートの活用に関して意見交換が行われました。加算算定用件で、計画シートの作成とシートに沿った支援が必要となるが、様式については、特に統一したものは示さないとの県の回答であったため、実際どのようなものなのか共通認識をもってもらうため、駿豆学園・天良施設長より、すでに運用を始めている支援計画シートを参考に説明をしてもらいました。その後の意見交換から、加算に関わらず、強度行動障害への支援を考えた場合、やはりある程度統一化された様式が必要ではないかという事で、11 月の障害者施設支援部会職員研究集会を目途に、第一段階の形を作ることで会員施設の協力をお願いしました。
　次に、情報提供、問題提起の問いかけに、悠雲寮・大迫施設長より、昨年の津久井やまゆり園の事件を受けて、県立短大のシンポジウムで話をするが、入所施設の存在意義について意見を伺いたいとの提起があり、新旧会長をはじめ多くの施設長より、専門性を担保する場、次のステップに進むための基礎固めをする場、地域に開かれた存在になって行く必要がある。等々活発な意見交換が行われました。
　最後に、人材確保・人材育成の取り組みについて参加施設すべての意見を聞き終了しました。
　施設の存在意義といった、すぐに答えが出るような内容ではない提起に対しても活発な意見交換がなされ、有意義な分科会であったと思います。

【　第３分科会　日中活動支援部会　】

ミルキーウェイ　原　邦人

テーマ「人材育成と定着について」―職場環境改善の取組み―
　分科会では、人材育成と定着についてをテーマとしました。現在、どの事業所においても「人材不足、募集をしても集まらない。」という現状があります。そのような状況の中で、現在働いている職員をいかに育成し、定着させていくのかも大きな課題ではないかと考えます。
　今回、沼津のぞみの園内川施設長・松ぼっくり山田施設長・ぴのほーぷ松下施設長より、それぞれの法人及び事業所での取組みについて報告をいただきました。人事考課による給与への反映やモチベーションアップのためのボトムアップ、働きやすさ、おもしろさ、楽しさ等、仕事を通した中で職員に感じてもらえる働きかけを行っていることが報告されました。
　また、全体では「人材確保」のための取組みとして、実習生、ボランティアの受入れ、人材派遣、外国人の雇用等についての話題が提供されました。

【　第４分科会　生産活動・就労支援部会　】

掛川工房つつじ　滝口 裕二

テーマ「就労支援が果たす役割とは何か」
～働く・くらすを工賃から考える～

今回の部会会議でのテーマを決める段階から、事前アンケートでテーマを決め、テーマからもう少し踏み込んだ形でのアンケート調査を依頼しました。皆さんからは、沢山のご意見を戴きました。各施設でそれぞれが苦慮しながらの就労支援を行っているという事がわかり、お互いが情報共有するという事で、少しでも問題解決の糸口になればと思い行いました。アンケートでは、各地域の現状も異なることから、定員と現員、28 年度の平均工賃実績等比較参考にと一覧表にしました。設問に対して自由表記の回答は、別紙にまとめ、それを基に皆さんで確認しながら情報交換をしました。

Q11　一般就労に向けた支援の具体的な取組について
Q13　一般就労された方への支援を施設がどこまで担う必要があると考えるか
Q15　工賃向上という事で利用者さんは何を得ると思いますか
Q16　工賃が低いことで利用者さんのリスクは何だと思いますか
Q17　利用者の生活の中で金銭的な行き詰まりはありますか

工賃向上計画・工賃倍増計画と、工賃という事だけを意識せざるをえない状態であり、「働く・くらす」という意味を改めて考える機会とし、今後の支援に臨んでいきたいと思います。

【　第５分科会　地域支援部会　】

オランチ　矢代　啓

地域支援部会では、全体のテーマを「住み慣れた地域で安心して日々の生活を送る為に」とし、出席者５名で話し合いを行いました。また、それぞれの事業所で抱える問題、課題についても意見交換されました。

内容として、①法律の枠組みにとらわれすぎず、利用者にとって一番良い場所はどこか？という観点から考えていくことが望ましい。②利用者の高齢化に伴い、家族からグループホームで何処まで見てくれるのか？家族として介護保険事業所との思いはあるが、イメージは特養の一択であり、家族への丁寧な説明、理解を求める必要がある。支援者も知識、情報を収集し選択肢の幅を広げることが必要。また、利用者さんは環境変化に弱いというイメージもあるが、思っている以上に適応能力がある場合もある。③職員、世話人の確保の問題として、募集をかけても人が集まらない現状。世話人に求められる支援の質も高度になってきている。もう少しグループホームに従事する方々の価値が上がる必要もある等の意見が出されました。

【　第６分科会　相談支援部会　】

障害者就業・生活支援センターさつき　中村　文久

◯開催日：平成 30 年 1 月 26 日（金）午前 9 時～正午
◯会場：静岡グランドホテル中島屋
◯参加人数：8 名
◯来年度の報酬改定に向けての意見交換を行いました。相談支援部門においては特に計画相談の報酬体系が大幅に変わるとの情報を受け、今回は、この報酬改定に絞って意見交換を行いました。主な議論の要点は、以下のとおりです。
（この時点では）報酬体系が明らかになっていないので、日知協相談支援部会での論議内容を紹

介しながら意見交換を行いました。
・基本報酬は減額となること
・相談支援専門員１人当たりの１月の計画、モニタリング作成件数を 35 件とすること
・特定事業所加算が拡充され、2 人体制でも加算対象となること
　特に作成件数に上限を設けることは、各地域で影響が出るものと思います。地域での特定相談支援事業所の整備が進んでいるところであれば、上限が設けられても影響は少なく、計画の質の向上に繋がるので歓迎されるものです。事業所が少ない地域では、相当数の作成件数を既に抱えており、上限を超え減算になる可能性が高くなってしまうことが考えられます。いずれにしても事業所だけで解決できる問題ではなく、今後報酬が確定した段階で、運営について検討する必要があると思います。
　このテーマ以外で、各地域の相談支援に関する課題が挙げられました。
　特別支援学校卒業後の行先が無いとの声や、日中の居場所はあっても住まいが無いとの意見が聞かれました。
　就労継続支援Ａ型や放課後デイサービスのように、数が急激に増加しているサービスは、その質が伴わない、実施しているサービス内容が不明瞭な事業所があり、地域によっては、総量規制を行う予定の自治体もあるようである。放課後デイサービスの事業者の連絡会が出来た地域もあり、相談支援専門員が積極的にかかわり、ネットワーク化も進んでいるとの報告もありました。
　相談支援の果たす役割は、今後ますます大きなものになって行くことは、確実であり、事業所を運営する法人の積極的なかかわりを求めたい。

＝専門委員会･部会報告＝

○事務部会

事務部会担当　日比野　功

　今年度の研究集会は、「労務管理と法改正等について」をテーマに、鵜藤経営労務事務所所長の鵜藤　明氏を講師に招き、人事・労務の変化に伴う労務管理のあり方や、関連する法改正の内容等について講演を頂きました。
　当日は、①働き方改革　②施設や企業における最近の労務管理　③労働法に関する最近の法改正について説明を受け、その後、4 つのグループに分かれ、労務管理の現状・課題をテーマにワークを実施しました。人材不足、メンタル不調者、法律の理解、職場の雰囲気、勤務管理、時間外労働等について議論がされ、講師からは、採用時、採用後の面接の大切さ・重要さがアドバイスされました。
　福祉業界は「人手が足りない」「休みにくい」「心身の負担が大きい」といった厳しい現実があり、過酷で劣悪な労働環境といったネガティブなイメージを想像させてしまっています。いかに働き甲斐を感じながら働けるかを追求し、必要なアナウンスをしながら魅力的な職場を創っていくことが、福祉現場の働き方改革につながっていくのだと思います。
　今回の研究集会がそうしたヒントになれば幸いです。

○栄養部会報告

栄養部会担当　吉井桐子

　今年度の栄養部会では、東海大学短期大学部、食物栄養学科の末永美雪教授を迎え、『皆で取り組む　楽しい食育～食育へのアプローチ・アレルギーの理解と対応～』と題して、お話し頂きました。(1)特別支援学校の食育の在り方では、「生きた食材」を教材にし、「３つの色の食べ物」「朝

ごはんを考える」「おやつの役割を知る」を学び、QOL の向上につなげる支援を教えて頂きました。(2)食物アレルギーのメカニズムを知り、アレルギーの改善を図る支援を学びました。(3)事前質問に対して、先生の考えを分かりやすく教えて頂き、とても参考になりました。

午後は、施設で一人職場となることが多い栄養士や調理師が各々話題提供をするなかでグループ討議をしました。参加者から「他施設の話を聞くことで、自分の施設でも取り入れていくべき事、改善点などが明確になり、良い時間が持てました。」「普段なかなか相談できない事が、同じような境遇や悩みを言い合え、返答してもらい、良い話し合いになった。」と声が聞け、一日充実した研修会になりました。

○保健・医療部会

オランチ　矢代　啓

今年度の保健・医療部会研修テーマは、コミュニケーションに着目し、講師に社会保険労務士の赤堀久士氏を招きグループワーク中心の研修を行った。いくつかのゲームを通して、皆で意見を出しあい、意見を否定せず、より良い状況へ持っていく為にどうすれば良いか、視点を変えてみることで新たな発想、・気づきへとつながるということを行いました。

挨拶の事例映像を観ての気づきについて意見を出し合った。普段何気なく行っている行為であるが、大切さを再認識させられました。コミュニケーションの研修ということもあり、雰囲気作りの点で冒頭のゲームから始まり、リラックスした雰囲気で研修が進められました。

私たちが普段行っている支援を改めて振り返り、疑問を投げかけてみる。支援する側が個々ではなく、チームプレイで行うことで、利用者の皆さんへのより良い支援へつながる。当然のことであるが、簡単なことではありません。

意見が言い合える、否定から入らない等の雰囲気作り、それには、まず誰でも出来る挨拶からということを出席者で共通理解し、研修会は閉会しました。

≪編集後記≫

東日本大震災から 7 年が経過しました。震災後も、日本のあちこちで、地震、火山噴火、豪雨災害、また地球規模でも同様の報道がされています。そんな中、我が静岡県周辺は、エアポケットの様に不気味なほど静かです。次はこのあたりか、そろそろ東南海？災害報道があるたびに不安が膨らみます。来るべき時に備えて、気持ちの準備は必要かと思います。

年度末の本当にお忙しい中、原稿を寄せて頂いた方々に心よりお礼申し上げます。

引き続き来年度も広報担当となりました。皆様方のご協力、よろしくお願い致します。

しずおか愛護 32 号お届けします。

（広報担当　三田充彦）